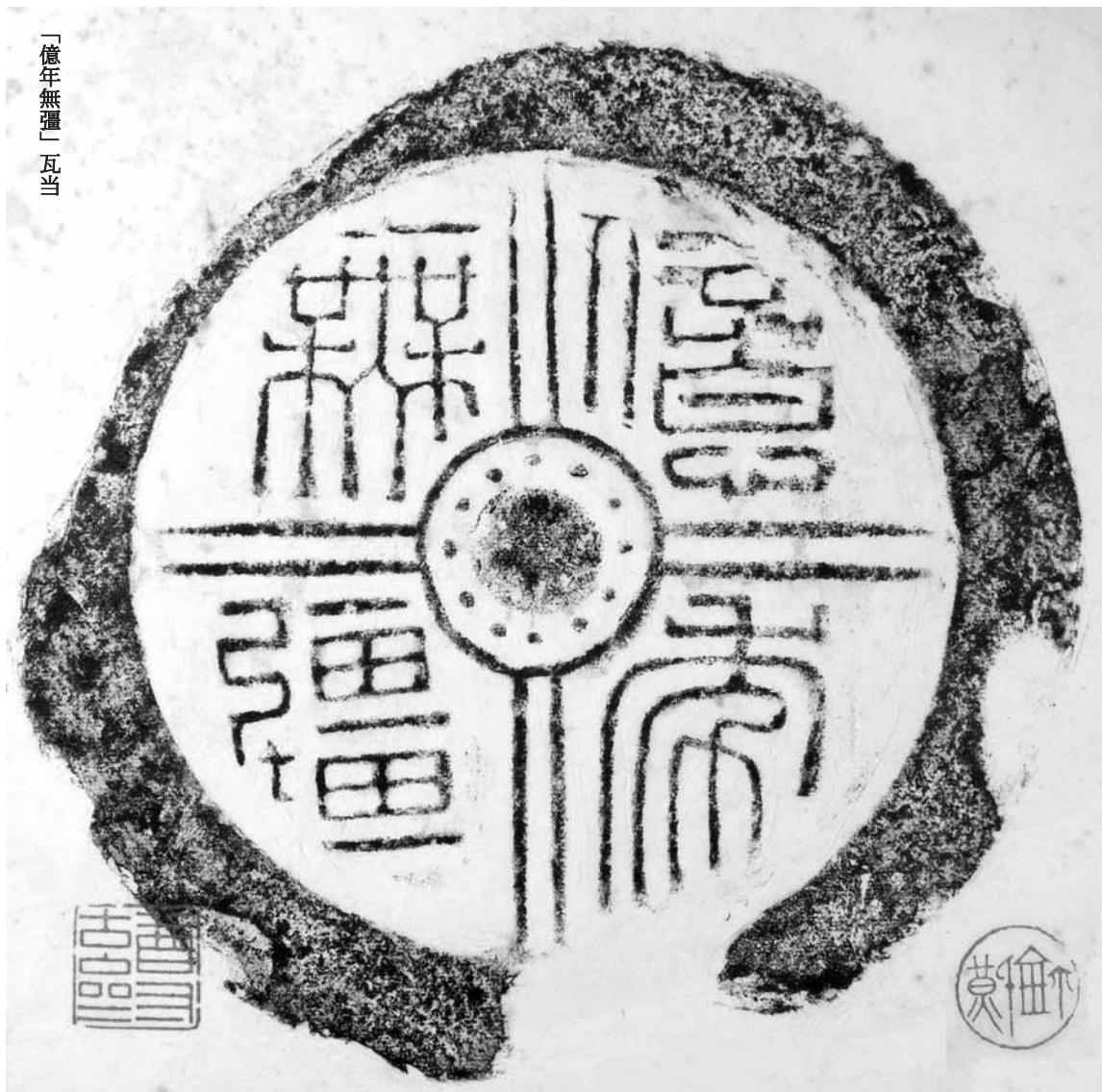
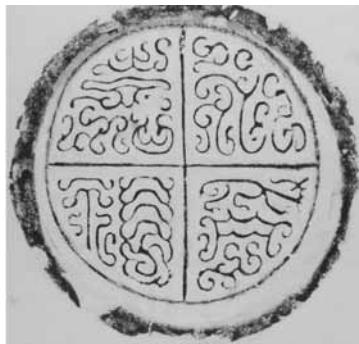


秦漢瓦当拓本・優品四種

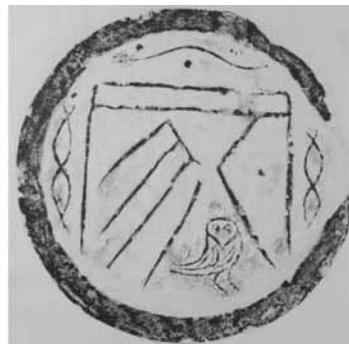
「億年無疆」瓦當



「十二字(維天降靈延元萬年天下康寧)」瓦當



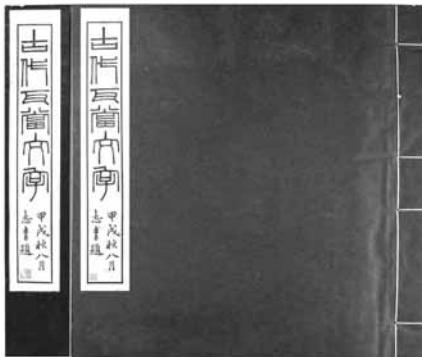
「永夷嘉福」瓦當



「塚」字に巢の画像瓦當

# 「落ち穂拾い記」③ 『瓦当文』(上)

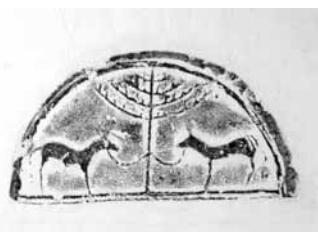
(図版②)



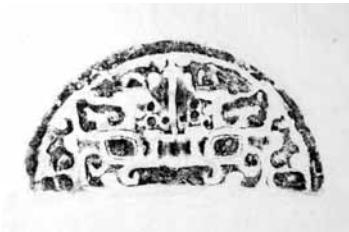
(図版①)



(図版③)



「樹木双馬」半瓦当



「獸面紋」半瓦当



「白虎紋」瓦当

秦漢時代の瓦当文拓本は、小品であるが見応えがある。約二千年前の当時の宮殿建築に使用されていた屋根瓦が、時代の移り変わりとともに地中に埋まり、長い時を経て出土した。その凹型の軒先瓦の表には、漢時代の宮殿名や吉語などの文字を見る事ができる。この瓦の文字を瓦当文という。清朝後期の金石学の発展とともに、秦漢時代の瓦当文も注目され、多くの種類が拓本に取られたりして、碑法帖と同じように市中に流布してきた。書に興味のある方にも好まれたのであろうか、本の装幀や表紙に瓦当文の拓本が使用されているのを目にすることがある(図版①)。若い時から漢碑や六朝碑とともに瓦当文にも注目してきた。瓦当の原拓本を収録したものでは、西泠印社が戦前に制作した「遯金秦漢瓦當存」があるが、30点ほど収録するのみである。その後、古書の下見会で偶然にも、民国年間に北京の尊古齋で制作された「古代瓦当文字」を入手した(図版②)。線装本二冊一帙で、秦漢の瓦当二百点を収録する。内に尊古齋の制作をしめす鑑藏印が捺されている。尊古齋は、北京の琉璃廠の有名な骨董商であり、その主人の黄浚(字は伯川)は、青銅器の金文や甲骨文等の古文字に関する学識も深く、さらに外国语にも通じた優れた人物であった。後にその深い学識を乞われて、北京の故宮博物院にも招かれたといふ。その黄伯川が制作した秦漢瓦当文拓本集である。漢の代表的な文字瓦当が150点、戦国と漢時代の画像瓦当(図版③)等が50点収録され、質、量ともに優れた瓦当拓本集である。右頁に示したのは、その中の優品四種を示した(主図版)。「億年無疆」の吉語、「塚」字に累の画像瓦当、鳥虫篆体の「永寿嘉福」瓦当、最も多字数瓦当と称せられる「十二字(維天降靈延元萬年天下康寧)」瓦当である。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2023)



第57回竹扇会書展併催松浦錦扇個展「運鈍根」

松浦錦扇書



松浦錦扇

令和4年は、私にとて決して忘れることが出来ない年になりました。

長年ご指導いただいた、小伏竹村先生が2月22日に96歳で永眠されました。

竹村先生は、まだまだ未熟な私を温かく、時には厳しくご指導してくださいました。社会人になって、少し自分の時間が取れるようになつた頃、何か自分がためになる事を始めようと思う日々を過ごしていた時、通勤電車の窓から竹扇会書道教室を見つけて、ご自宅に電話をしたのがきっかけでした。その時、奥様の小伏小扇先生が電話が出て、小扇先生の教室に見学に行かせていただきたいのが、竹扇会と書道との出会いです。その後、結婚と3度の出産のため、仕事と育児との両立で、なかなか思うように時間が取れず、何度も小扇先生に、今回の展覧会は不出品させて下さいとお願いに教室に伺うと、「大丈夫、今ここで書けるよ」と言われ、子どもを連れて教室で書かせていたいた事が、昨日の事のように思い出されます。

また昨年、毎日書道展大字書部審査会員に昇格させていただいたのをきっ

かけに、第57回竹扇会書展併催で初めての個展を開催させていただきました。審査会員昇格と初個展の事は、闘病中の竹村先生に直接電話で報告する事ができました。とても喜んでいただけましたからやで、頑張りや」と励ました。初個展では、展覧会場の半分以上も私のために提供してもらえたので、今の自分が出来る限りの事を、後悔なく作品として発表したいと思い、大きな紙面と向き合いの大作3点含む合計7点を発表させていただきました。これも日頃から応援している小扇先生はじめ、竹扇会員のみなさんの協力のおかげで、無事に開催出来たことが私の自信にも繋がりました。また忘れてはいけない事は、これまで支えてくれた家族の協力です。時には家庭より書道を優先したり、長期間不在にしたりしながらも、陰で支えてもらう日々でした。これからも、今まで応援していただいた皆様に感謝し、後悔することなく、毎日を過ごして行きたいと思います。

# 書のひろば

理事長 下谷洋子

## 第76回書道芸術院展開催

コロナウイルス感染症も行動制限がなくなり、ようやく收まりを見せ始めた中、第76回書道芸術院展が開催されました。一般は帝国ホテルでの表彰式（上位入賞者のみ）、作品解説会（一般・無鑑査、推薦作家、全体）を、学生展は同ホテルでの表彰式（同じく上位賞のみ）、席上揮毫会、ワークショップを行いました。席上揮毫は、大賞受賞者9名が、半切などに堂々とした書きぶりを披露、その落ち着いた様子を頼もしく思いました。今年のカレンダーを作るワークショップも、企画委員の指導の下、様々な色紙に好きな言葉を書いて貼り混ぜにしたりと、楽しそうに参加していました。

一般・無鑑査、推薦作家を対象にした作品解説会は受賞者のみならず指導者なども参加し、また推薦作家では理事による助言も加わり、平日ではありましたが賑わいを見せっていました。

最終日の全体での解説会は第1室を中心、理監・評議員・大作の作品と、各部候補以上の概要などが中心に行われました。1時間余でしたが、内容的には本院の役員の前向きな姿勢がいくらか伝わったのではないかでしょうか。

祝賀会こそ開催できませんでしたが、久々に会場に活気が戻り、展覧会の意義を感じました。

## 第74回毎日書道展 主要人事決定

2月6日第74回毎日書道展運営委員会が如水会館にて開催されました。2年振りに全国から運営委員や各展実行委員が集合、74回展実行委員長の力強い意気込みが響き引き継ぎました。

●当番審査員  
岩垣若翠（漢I）、半田藤扇（漢II）、  
松村くに子（かI）、木村東舟（かII）、  
白石和楓・高田幽玄・浜田堂光（近）、  
小伏小扇・前田龍雲（大）、工藤永翠・  
知野洛水・津田海仙（前）

●運営委員（1月号に掲載）  
会員賞選考委員 下谷洋子（か）

●会員賞選考委員（水）～8月6日（日）  
「東京都美術館」

●会員賞選考委員（水）～7月24日（月）  
「京都市京セラ美術館」「みやこめしがせ第2展示場」「日岡デザイン博物館」

●会員賞選考委員（水）～8月20日（日）  
「北陸展」「富山県民会館」

●会員賞選考委員（木）～8月24日（木）  
「中国展」「広島県立美術館」

●会員賞選考委員（火）～8月27日（日）  
「鳥取、島根、岡山、広島の各県」「東海展」「愛知県美術館ギャラリー」

●会員賞選考委員（火）～8月27日（日）  
「四国展」「愛媛県美術館」

●会員賞選考委員（水）～8月27日（日）  
「徳島、香川、愛媛、高知の各県」「東北仙台展」「仙台メディアテーク」

●会員賞選考委員（木）～8月27日（日）  
「北海道展」「札幌市民ギャラリー」

●会員賞選考委員（火）～8月27日（日）  
「山形、福島、秋田の各県」「九州展」「大分県立美術館」

●会員賞選考委員（火）～8月27日（日）  
「大分、宮崎、鹿児島の各県」

○東京展  
「国立新美術館」  
前期展Ⅰ期 7月12日（水）～7月17日（月）  
後期展Ⅱ期 7月19日（水）～7月24日（月）  
後期展Ⅲ期 7月26日（水）～7月31日（月）  
10月31日（火）～11月5日（日）

○東北山形展  
「山形美術館」  
10月18日（水）～10月22日（日）  
山形、福島、秋田の各県

○九州展  
「大分県立美術館」  
10月31日（火）～11月5日（日）  
山口、福岡、佐賀、熊本、長崎、  
大分、宮崎、鹿児島の各県

## 現代女流書100人展華やかに開催

恒例の現代女流書100人展が2月16日から20日まで、日本橋高島屋特設会場にて開催されました。（特集ページP5～P8掲載）

今年は、恒例の毎日展でグランプリを受賞した方と、新たに審査員に昇格された書家を加えた「新進作家展」が同時開催となりました。初日16日に、秋篠宮佳子内親王殿下がご来臨になり、運営委員の解説によりゆっくりご鑑賞されました。

## かな書道作家協会 創立60周年記念展

かな書道作家協会は、昭和35年に創立された毎日書道展に参画しているかな書道作家を中心とした親睦団体です。コロナ禍のため遅れています60周年記念展が、2月21日から26日までセントラルミュージアム銀座とフェニックスホールにて開催されました。出品数は役員及び毎日展審査会員と、選抜された会員総数273人で、会派を超えた多様なかな書やかな作品が並び毎日展のかな部の全貌が窺えたかと思います。

7 / 6 文部科学大臣賞選考

○東北山形展  
「山形美術館」  
10月18日（水）～10月22日（日）  
山形、福島、秋田の各県

○九州展  
「大分県立美術館」  
10月31日（火）～11月5日（日）  
山口、福岡、佐賀、熊本、長崎、  
大分、宮崎、鹿児島の各県

# 現代詩文書基礎基本講座(34) 小竹石雲

## 【臨書から現代詩文書への展開】

原帖



②發展的臨書  
「戴酒過江」



「戴酒過江」

## 【苔溪詩卷】

米芾 北宋(一〇八八年)

米芾は蘇軾、黃庭堅同様、宋の四大家の一人。蜀素帖が書かれる1ヶ月前、苔溪に遊びに行くに際し、友人たちに呈した自作の詩。書画の鑑識者としても造詣が深く、書技においても羲之の流れを継承した第一人者である。

### 特徴

蜀素帖が穏やかな調子をもって書かれているのに対し、苔溪詩巻は中心が左に傾いており、秀抜で力感にあふれている。

①写実的臨書  
蜀素帖を多く淀みのない筆線には、羲之の自然さを踏まえた上で、米芾独特的伸びやかさが表出され印象的である。

②發展的臨書  
蜀素帖を基に、筆のリズムが伸びやかで活動的である。

### ②發展的臨書

写実的臨書は兼毫、これは羊毛筆を使用。

質感の違いが少し新鮮に感じられた。潤いに温かさを狙つてみたかった。

次世代に受け継がれる要素が内在しているように思われた。それら要素は何かを求めるための臨書でなくてはならない。

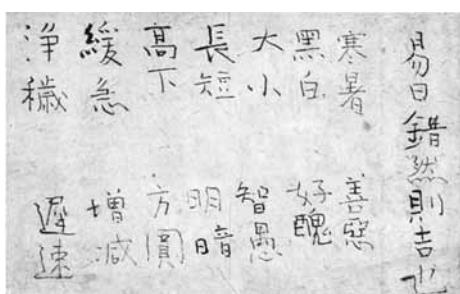
# 前衛書基礎基本講座(10)

千葉蒼玄

書の線の特質、文字造形について述べてきたが、作品にはそれ以外にもいろいろな要素が含まれる。

私たちは漢字、かな、近代詩でも線質、造形を考えて作品を作っているはずであるが、どう変化させているかは、はつきりとは認識していないのではないか。前衛書でも何もないところから造形、線質を生み出すことはできない。

良寛の細楷のなかに、その相反するものを書いたものがある。



前衛書の制作過程の一つとして、篆書の造形を基にして作る手段がある。

新しい形を作る場合、どうしても常識という概念にとらわれがちである。特に楷書、行書、かな、片仮名は、小さいころから活字として絶えず目にしている文字である。特に楷書、行書、かな、片仮名は、小さいころから活字として絶えず目にしている文字である。また篆書の場合には専門的に勉強した人は別として、文字という概念を離れて、造形(絵)として見えるのではないか。

この篆書を基にして作品を制作するわけであるが、私がいつも念頭に置いていることは、大澤雅休の書論の中にある「二律背反するものの「一元化」という言葉である。

「二律背反とは、辞書によると「一つの事柄から生じた結果や判断が、ともに成り立つと同時に矛

盾している状態」、例えていえば、白黒、大小のように相反する状態である。

整理してみると

文字の大きさ、形……大小・高下・長短・方円

文字の雰囲気……好醜・知愚・淨穢

潤渴、粗密……黑白・明暗・増減

リズム……

この相反する要素を一つにまとめて上げれば作品としての内容が充実すると考えている。

次回より篆書を素材とした作品例を何種類か紹介する。

第54回

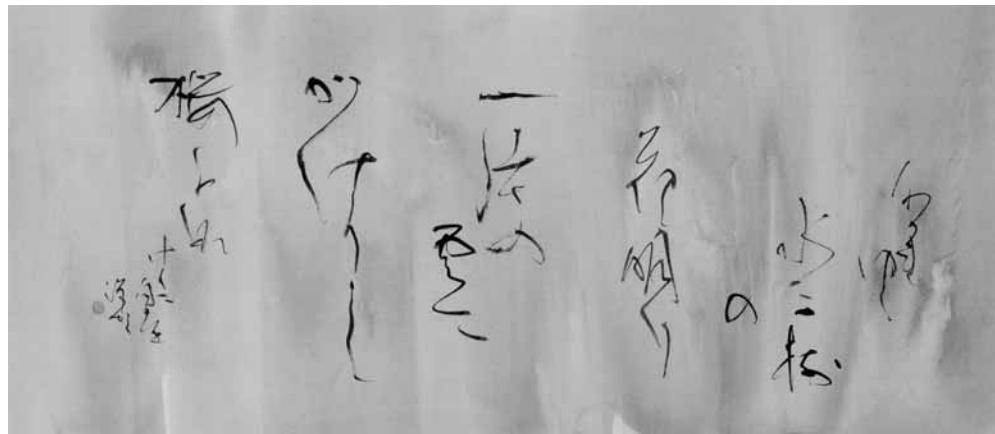
# 現代女流書100人展

同時開催=現代女流書新進作家展

・2023年2月16日(木)→2月20日(月)

・日本橋高島屋S.C.本館8階ホール

〈運営委員〉 下谷洋子



〈流れゆく水〉

61×138cm

〈社日〉



〈最首翠風〉

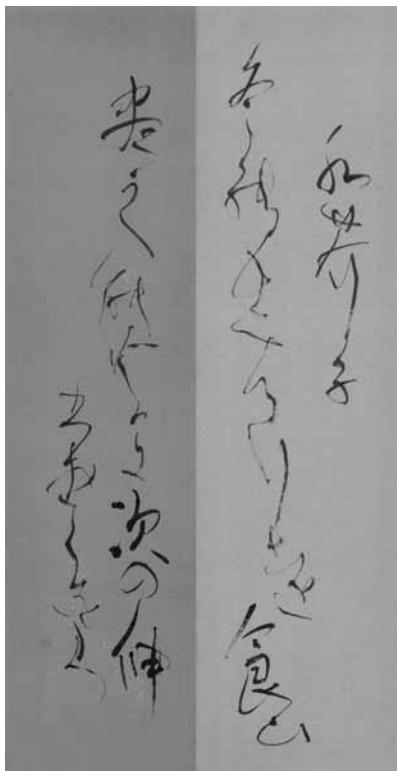
94×125cm

岩垣若翠



182×55cm

水芥子

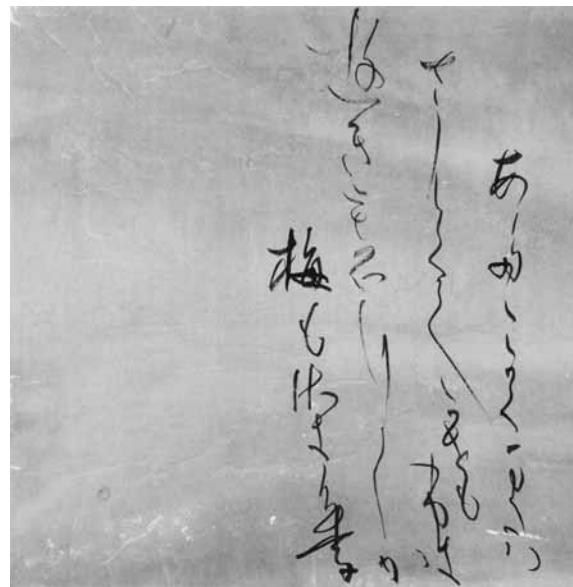


136×70cm

九條純代

比庵のうた

石井明子



95×93cm

深代響の句



金木和子

春日大社の遷座に

白石和楓



178×73cm

△乱△



136×105cm

青柳明華

〈山口茂の句〉



180×71cm

武山櫻子



153×72cm

真下京子

〈いしぶみのプロローグ〉

〈百年分离在須臾〉

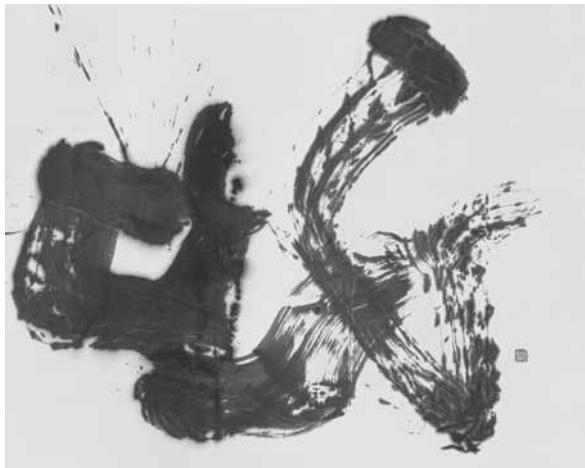


工藤永翠

117×91cm

〈「幽」による〉

柳橋香仙



97×121cm

## 新進作家展

木村笙園



〈松尾芭蕉の句〉

70×151cm

△咲△



宮崎芳玉

△睦△



松浦錦扇

91×122cm

151×70cm

## 〈お知らせ〉

### —『書道芸術』月例競書出品規定改定について—

(公財) 書道芸術院理事長 下谷洋子

#### ◆令和5年4月より、「書道芸術」誌に書道芸術院展審査会員の方も月例競書の全部門に出品可能です。

現在、書道芸術院展で審査会員に昇格した方は、「書道芸術」誌の規定部には出品出来なくなっています。そこでこの度、3月号（4/15締切）より、本院の審査会員という資格と、「書道芸術」誌での成績は切り離すことにしました。所属部門以外にも学ぶ機会を失わず続けていただくためです。

該当する方の手続きは、下記編集部からのお知らせをご覧下さい。

※なお、春季昇段級試験（4/15締切）に審査会員の方も受験可能です。

#### <月例競書作品出品手続きについて>

##### 【バーコード出品券について】

1. 以前のものを持っている→そのまま使用可能（バーコード番号が「89」から始まっていることを確認してください）
2. 破棄した→再発行手続きが必要
3. 月例競書に出品したことがない→新規作成

※2・3の方は書道芸術院迄申請書を請求してください。再発行には再発行手数料として1人500円分の切手が必要となりますので準備をお願いいたします。

##### 【段級について】

- 不明な方は書道芸術院事務所へお問合せください。ただし、確認できるのは、データ管理が始まった平成16年以降となります、ご了承ください。平成16年以前に取得済段級は自己申告が必要となる場合があります。

◎4月15日締切より出品ご希望の方は、再発行手続きに時間を要する可能性があります。至急手続きをお願いいたします。

「建武三年簡」

後漢 165年

(1) 第3簡

甘肅省文物考古研究所藏

〈解説〉 1990年代にスウェン・ヘディンらによる内モンゴル自治区居延発掘調査によって発見された一群の木簡は「居延漢簡」(旧簡)とよばれている。この約40年後の1973年から74年にかけて、甘肃省博物館を中心に組織された甘肅居延考古隊の再発掘調査によって前回を上回る大量の木簡が発見されたが、これらは「居延新簡」とよばれている。図版は新簡中の15簡からなる「建武三年簡」のうちの第3簡、第4簡である。書体は速書きの隸書である。草書に属し、後の草書の原型になった。自由闊達で伸びやかな運筆、文字の大小の変化の妙などは見るものを圧倒する。

(編集部)

九日詣部到居延收降亭馬罷放騎永所用驛  
九日詣部到居延收降亭馬罷放騎永所用驛

長焦永行檄還放騎永所用驛  
長焦永行檄還放騎永所用驛

(2) 第4簡

九日詣部到居延收降亭馬罷放騎永所用驛  
九日詣部到居延收降亭馬罷放騎永所用驛

馬去永持放馬之止害隧其日夜人  
馬去永持放馬之止害隧其日夜人

馬去永持放馬之止害隧其日夜人  
馬去永持放馬之止害隧其日夜人

定時。永騎放馬行警。檄。牢駒

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

\* 特別研究部臨書課題 (A. 大作の部毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部一半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

→ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の(1)・(2)「居延新簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

# 古筆鑑賞

(228)

元永本古今集  
(伝源俊類)

(3)

よみ  
素性  
みわたせば柳桜を古文未勢  
み見ゆす耳にしきな  
みやこぞはるのにしきな  
りける

さくらの花のもとにてとしの  
おいまねることをなげきて

以昌毛加元おなじむかし  
いろもかもにさくらめど  
しふる人ぞあらた  
まいける

よみ

みわよゑ柳桜をすまひて

月やさくらほのすまひて

よみ

せくらの花をすまひて

おまやまくらほのすまひて

友則

しすもしにさくらほのすまひて  
よみ

(東京国立博物館蔵)

※掲載図版・80%に縮小

## かな研究部臨書課題

B.A.

大作品の部毎日展審会員全員サイズ以内、2×6尺全紙も可  
B. 小作品の部毎日展審会員全員サイズ以内、2×6尺全紙も可  
C. いざれも左記の掲載以外も可。V

## 特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半紙紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全體も可)

**〈解説〉** 平安時代、歌をよくし、美しい文字を書くことが王朝貴族にとって欠くことのできない教養であった。当時は宮廷の儀式や行事、お祝い事に際して心を尽くした贈り物をするのが通例であった。とくに珍重されたのが、身の回りにおいて鑑賞する調度手本として歌集を書写したものであった。中でも『古今和歌集』は最初の勅撰和歌集で最も重要視され、筆跡の巧みな人によって数多く書き写された。この元永本古今集は、元永3年(120)の書写年代が記されている「古今和歌集」の最古の完本である。巧妙な筆致と華麗な料紙装飾とが一体となってとけ合い、極めて貴重な優品と言える。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。  
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

名 越 蒼 竹

水邊紅樹依稀  
(杜本詩)  
(水邊紅樹依稀たり)

水辺には赤い花の木がぼんやり  
と見える。



書の歴史上、明清時代の書はそれまでの時代のものに比べて格調が下がるとされてきました。しかし、篆隸書の筆法は鄧石如や吳讓之、楊峴や趙之謙などの肉筆から学ぶことも多く、条幅形式の行草書の諸様式は明清時代に発達したもので、現代の私たちに多くのヒントを与えてくれています。

6回シリーズの最終回として、もう一度行草書を取り上げました。ただ1月と違って、書風は明清時代に近いものにしています。最初は連綿線を多用した傅山の書風も試みていましたが、曲線が多くなり過ぎたため直線を残すようにして、連綿線を削りました。筆は兼

漢字規定秀級以下【四月十五日締めきり】用紙半紙普通判

川島舟錦選書

## 習い方解説 (六)

川島舟錦

萬古清風  
(万古清風)

(李舒)

「清らかな風がはるか昔から変わることなく吹き続いている。  
『清風』は真理のたとえで、真理は不変であるということ。」  
『』

楷書のむずかしさ、書けないものかしさ、4文字をまとめる大変さを感じ入ることとなつた6ヶ月でした。

「鍛錬するしか道なし」「書道には近道も高速道路もなし」どうして今までやつてこなつたかなぜくよりも、5年後10年後をめざして、コツコツ積み重ねてみようと思うに至る6ヶ月となりました。いつの日か、恩地春洋先生にお会いしたとき、「あかん!」と言われないよう。ニンマリ笑顔でお迎えしていただけるように。



書体＝楷書

萬古清風 よみ(万古清風)

習い方解説 (三)

石井明子

きょうもまた巡礼のように私は心  
の鉢を打ち鳴らし打ち鳴らしなが  
ら、憂いの晴れる所を探して憧れの  
旅を続いている、との意。

(若山牧水)

古今集、新古今集の頃の歌がかな  
表現に相応しく書き易いように、牧  
水の歌はさらに現代のかな作品に向  
いています。榎倉香邨先生がこよな  
く牧水を愛し、多くの名作を残さ  
れていることからもよくわかります。

繰り返しの言葉があると書きにく  
いと認識しつつ、歌意に惹かれてこ  
の歌を選びました。

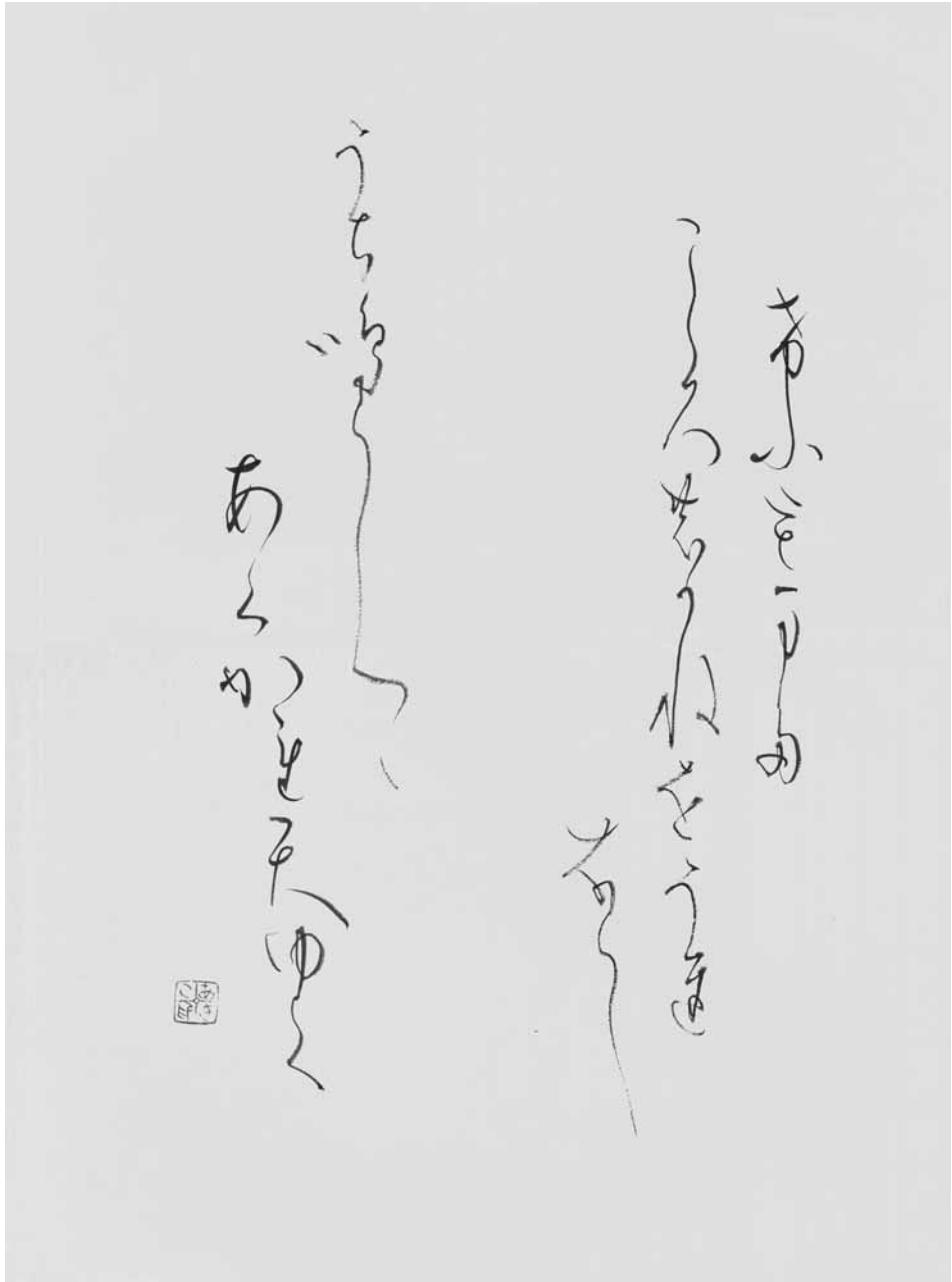
皆さんも常に好きな題材と書き易  
いかどうかの間で迷うことはあると  
思いますが、その時の自分の思いの  
強い方に従いましょう。表現者とし  
ては字面だけを重んじる選択はベス  
トとはなりません。



創作

\* 料紙は半紙版(330×245mm)を使  
用しましょう。

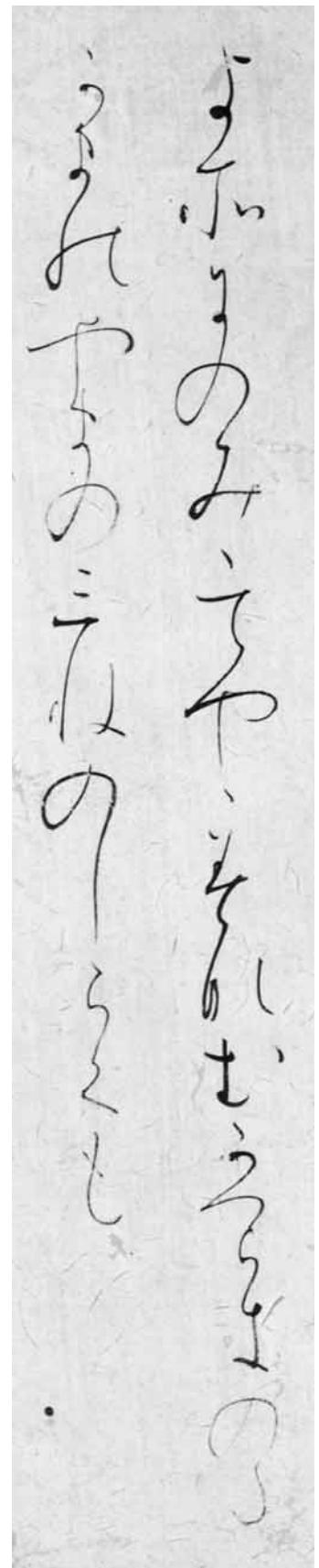
よみ方 け(希)ふも(毛)ま(万)た(多)ここ(へ)ろの(農)鉢(可ね)をうち(遅)鳴(奈)らし  
うち鳴らしつつ(へ)あく(久)が(か)れ(運)て(天)ゆく



かな規定 秀級以下【四月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。)

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 よそ(所)に(尔)のみゝてやゝみ(美)な(那)むか(可)づらき(支)のた(多)

か(可)まの(能)やまのみ(い)ねのしらべも

### 習い方解説 (三)

松村くに子選書

かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

春雨や暮れなんとして今日も有り  
(与謝蕪村)



1行目に短い行が寄り添う形の  
基本的な構成です。

1行部分が単調にならないよう  
に左右に張り出す線が必要です。  
寄り添う行は緩急をつけてお互い  
が引き立てられるようにします。  
この場合、入る墨色の変化も大切  
です。今日は歴史的な違いでは  
「けふ」となります。

よみ方 春雨や暮れな(奈)んとして今日も有(阿)り(里)

\*タテ形式に限る

創作

漢字条幅規定 初段以上【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

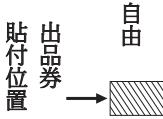
小竹石雲選書

## 習い方解説 (六)

小竹石雲



寒山無漏巖 其巖甚濟要 八風吹不動 萬古傳人妙 (寒山)  
(寒山の無漏の巖／其の巖甚だ落要／八風吹けども動かず／万古人妙を伝う)



私の担当も最後になりました。  
行草を中心、「流れ」にポイント  
をおいたものが多かったので、最  
後の横形式は、隸書で表現してみ  
ました。悠然とした摩崖碑風と、  
自由でくつたくのない木簡風を参  
考にし、焦らず気負わず書けると  
いいですね。前半は繁雑な字が多  
いので全体のバランスに苦慮しま  
した。

\*ヨコ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

## 習い方解説 (六)

小林琴水

「枯樹賦」の感じで、ふんわり  
と、温かい線質で固くならないよ  
うに注意して書いて下さい。



梅花路近宜逢雪 桃葉波平好渡江  
(梅花路近くして宜しく雪に逢うべし)

桃葉波平らかにして江を渡るに好し  
(雅境)

書体=自由

廣瀬舟雲

一天使とは美しい花を  
まき散らす者では  
なく苦悩する者の  
ために戦う者である  
ナイチンゲールのことば 舟雲

英國の看護師フローレンス・ナイチンゲー  
ルはクリミア戦争の最前線の戦場で、敵・  
味方の隔てなく負傷兵たちを看護。どちらら  
の尊嚴も守れるように医療・衛生面の現場  
の改善に尽力。その仕事ぶりが、のちの赤  
十字を創設するきっかけとなつたといいま  
す。ここでいう天使とは看護師のこと。近  
年ではコロナ禍のため、医師・看護師等医  
療従事者の方々に大変お世話になりました。  
この多大なる献身的な活動に感謝の意を込  
めて力強く書いてみました。

天使とは美しい花を

まき散らす者では

なく苦悩する者の

ために戦う者である

ナイチンゲールのことば

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用

◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「」注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

春分 啓蟄 鳥取県 山口県  
春分 啓蟄 鳥取県 山口県

吹く風に春の気配を感じる候となりました

吹く風に春の気配を感じる候となりました

大平 邑峰

(楷書) 春分 啓蟄 鳥取県 山口県  
(楷書) 吹く風に春の気配を感じる候となりました

(行書) 春分 啓蟄 鳥取県 山口県  
(行書) 吹く風に春の気配を感じる候となりました

基本用語 「春分」春の彼岸の中日。昼と夜の長さが同じになる。「啓蟄」二十四節気の一つ。3月6日頃。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

# ホープ作品

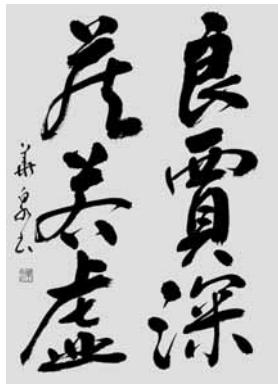
## 各部総評

NO. 741

漢字部 師範 栗原 葉泉

地味ではあるが、安定した筆致で味わい深い線質に境地の高さを感じる。落款の見事さが物語る。

◎漢字部総評 表現領域の多彩さと、積み重ねて密度を濃くしていく両面の学者が大切。時間をかけた着実な作品を切望す。（石雲評）



漢字条幅部 師範 三浦 小樹  
上質な線が冴え、配字のバランスが良く余白も美しい。温雅で上品な行草書。日頃の鍛錬が結実。



◎漢字条幅部総評 上級は草書体に不明確な書が見られた。校字を着実に。書風は多彩で、創意溢れる作も多く見られた。（萬城評）



かな条幅部 師範 加藤 翠陽  
しっかりと筆先のバネを利かせリズムが流れる。渴筆も丁寧に処理し、歌集名も巧く入り美しい。

◎かな条幅部総評 安定した作品が多くたが、ちょっとした点画の筆の扱いで誤字にもなるので十分な認識が必要です。（洋子評）

現代詩文書部 特選 西山 美龍  
計算し尽くされたかの如き見事な構成、強靭な渴筆線が紙面全体を見事に支える。

◎現代詩文書部総評 構成等練度が高い作多數。文字等に凝らし過ぎと思われる作散見。（無極評）

前衛書部 特選 工藤 和香  
淡墨で大胆な運筆、一気に吐き出した熱い情感が感じられる作。

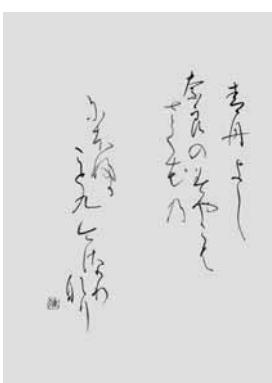
◎前衛書部総評 日頃の鍛錬による多彩な線を活かして、表現を楽しんでみましょう。（蓮紅評）

ペン字部 師範 石井 光子  
練度の高い筆線と端正な字形が魅力。布置も巧みで紙面が明るく、爽快感に溢れた作品です。

◎ペン字部総評 行書、かな連綿作品が大半。不自然な連綿が散見。連綿の方法を正しく理解することが大切です。（紅瑠評）

かな部 師範 苗代 佳恵  
強い線が生み出すリズムが萬葉集にモダンさを加味し、個性的、革新的にした。料紙選択が美事。

◎かな部総評 全般に完成度の高い作品多く好ましい。さうには墨量、字粒の研究を望む。他者の作品を多く見る機会が大事です。（明子評）



# 実用書優秀作品

選評 西川翠嵐

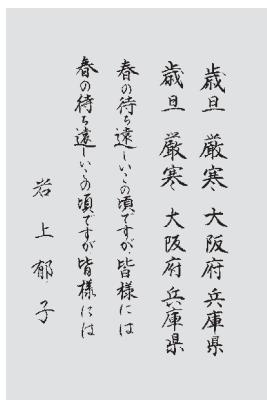
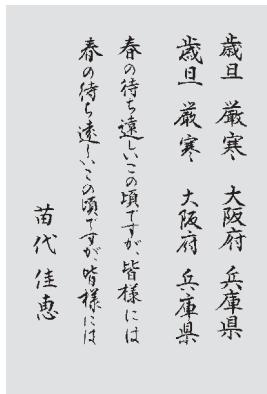
## ◎実用書部總評

敷き写して手本通りに書いている方を見受けますが、実用書は臨書ではありません。どうぞご自身の文字で伸びのびとお書き下さい。  
（翠嵐評）

\*今回手本の一部に誤字がありました。大変申し訳ございませんでした。

入筆がしっかりと書いていて穂先の長い線で見事に書けています。

細めの線ですが、文字の大小、長短が整い安定した布字でまとめました。



祥	四	上	土	誠	深	龜	竹	紅	深	大	伊	秀	八	幸	水	高	桜	高	草	高	草	特
華	枝	里	和	深	大	松	美	瑠	深	大	瑠	秀	街	扇	塹	宗	苑	真	草	真	草	選
佳	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	作	秀	秀	秀	秀	岩	岩	岩	岩	岩	選
喜	多	志	澤	鶴	石	池	横	廣	多	胡	木	坂	及	井	伊	相	茂	木	木	木	木	選
川	志	津	流	井	井	田	山	戸	千	木	木	井	ノ	ノ	澤	村	澤	澤	澤	澤	澤	選
麗	麗	麗	流	綾	綾	蘭	蘭	蘭	合	百	英	英	口	洋	香	敷	美	絢	絢	絢	絢	選
子	子	子	子	乃	乃	舟	舟	舟	千	千	晴	峰	春	硯	雨	子	楓	楓	楓	楓	楓	選
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	選
水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	選
惠	江	萌	和	美	信	良	春	嘉	俊	郁	叙	弘	良	白	白	香	良	美	房	房	房	選
風	舟	心	奈	彩	佳	和	子	子	子	子	子	子	子	眺	眺	眺	子	子	子	子	子	選
一	新	だ	こ	仙	生	東	總	竹	原	田	千	葉	街	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
佑	朋	茎	川	玉	蘭	蘭	仙	秀	生	東	總	葉	街	幸	澄	春	深	深	深	深	深	選
華	華	華	華	華	華	華	華	華	華	華	華	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	琴	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	氏	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選
略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	葉	街	扇	春	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	瑠	選

## 前衛書部(特選)

## 現代詩文書部(特選)



琢紅 浩美  
翠華 美炎  
佳月 美星

葵紫琳朋  
久美子  
佳仙

紫汀

水

雄一

代

藻

一

千

華

英樹

翠葉

祥舟

里

美仙

一京

光

雅

舟

梢

美

雅

舟

無極

琢紅 浩美  
翠華 美炎  
佳月 美星

強韌な線と潤渴の融合  
表現の巧みと運筆の妙  
運筆にリズムが共鳴  
純な心が伝わる線と墨色  
躍動の大さを感じる作

葵紫琳朋  
久美子  
佳仙

淡々とした味わい深い作  
骨力ある直線構成で流麗  
温雅で優しさが溢れる作  
温雅で優しきを感じる作  
氣魄のこもった筆勢が見事  
鍊度が高く白が生きた作  
淡墨が冴え情景が浮ぶ  
沈着した線に気魄がこもる  
骨力ある線が紙面を躍る  
構成の妙、余白が美しい  
骨力ある渴筆線が見事

筆勢が漲り躍動感溢れる  
温雅で優しさを感じる作  
温雅で優しきを感じる作  
氣魄のこもった筆勢が見事  
鍊度が高く白が生きた作  
淡墨が冴え情景が浮ぶ  
沈着した線に気魄がこもる  
骨力ある線が紙面を躍る  
構成の妙、余白が美しい  
骨力ある渴筆線が見事

選評 太田蓮紅

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 白石和楓 倉林紅瑠

## 小品の部

臨書 (菊月) 新井恵子 「元永本古今集」

部分拡大



新井恵子臨

35×136cm

現代詩文書 (葵花)

坂本蓉花  
「緋薔薇」



坂本蓉花書

70×35cm

◆元永の濃色の料紙に濃く  
書いている部分は線の把握  
が難しいが、歯切れよく太  
細を使い分けた。(洋子評)

◆濃墨で墨の入ったところと、2本筆と思われる細線  
渴筆のバランス見事。一貫したリズム、構成も良い。  
(和楓評)

臨書 (宗苑社)

茂木絢水  
「居延漢簡」

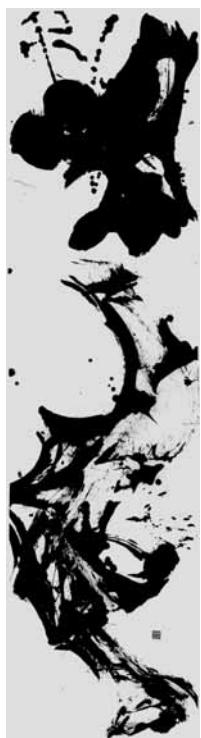
元康四年六月丁巳朔  
申左前候長角承 ゆかす

茂木絢水臨

135×35cm

前衛書 (月華社)

浅野日向子  
「勇気」



浅野日向子書

136×35cm

◆大胆な運筆が紙面に躍動感を与える。潤渴の変化も冴え、  
氣迫に満ちたスケールの大きな作となつた。(紅瑠評)

92点  
総出品点数

創作の部(38点)

漢字 - 7点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 50点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 50点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

かな - 4点

現代 - 12点

前衛 - 15点

漢字 - 54点

## 大作の部



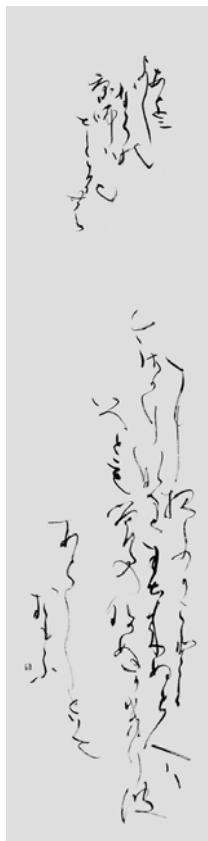
西條松雲書

前衛書  
(松風) 西條松雲 「春のおとずれ」

180×60cm

◆エネルギー感のある筆致が大きく躍動。中央部の強靭でシャープな線が空間を斬り、下部へと展開した快作である。  
(紅瑠評)

◆線は流れ過ぎて少々軽い感じがするが、上下2段に分けた散らしの形としては余白が利いて楽しい。  
(洋子評)



かな (水茎) 清水蘭舟 「春のうた」

225×52.5cm

漢字 (大拙社)  
畠中成山 「涼風廻樹杪」



畠中成山書

175×45cm



西川藤象書

現代詩文書  
(もくせい詩) 西川藤象 「丘」

175×45cm

◆骨力が全体に溢れ、特にかな表現が漢字によくマッチしている。線に充実感があり見事な作。  
(和楓評)

◆エネルギー感のある筆致が大きく躍動。中央部の強靭でシャープな線が空間を斬り、下部へと展開した快作である。  
(紅瑠評)

◆氣迫溢れる作。大胆な筆法が生む変化に富んだ渴線が冴える。漢簡を基に創意を加え遊び心もある。  
(萬城評)

創作の部(34点)	臨書の部(8点)
漢字 - 4点	漢字 - 6点
かな - 7点	かな - 2点
現代 - 6点	前衛 - 17点
現代詩	現代詩

総出品点数  
42点

月清	葉千	書洞	大月	大抽	篤信	前衛	もく	森田	奥田	小林	玉松	橋本	「かな」	「かな」	漢字 - 16点
境猪野	安藤	江本	佐藤	佐藤	吉田	大庭	市川	平野	三宅	直美	橋本	「漢字」	藤谷	姫霞	漢字 - 4点
和理扇	和子	興舟	朱成	朱成	朱鳳	幸右	紫泉	笛舟	笛舟	溪	「現代詩」	「創作の部」	42点	42点	かな - 7点
千葉	金井	陽	惠美	朱鳳	朱鳳	笛舟	泉	笛舟	笛舟	姫霞	「漢字」	「特選候補者」	漢字 - 4点	漢字 - 4点	漢字 - 4点
猪又	みどり	陽	吉弦	吉弦	吉弦	笛舟	笛舟	笛舟	笛舟	笛舟	藤谷	谷姫霞	谷姫霞	谷姫霞	漢字 - 17点

創作の部(34点)

漢字研究部  
(居延漢簡)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



赤羽根えり奈



漢字研究部 特選 赤羽根えり奈

やわらかい筆でリズミカルにおおらかに、  
自然な筆使いで表現。木簡に慣れていって、た  
くさん練習した、力強い線が魅力的です。

今後の可能性を感じる作品ですが、一つ  
「年盡」に負けない落款を！

◎漢字研究部總評

筆法ポイントが掴みやすい木簡ですが、特  
徴の一つ「藏法で書く」ということもおさえ

られてない作品が目につけました。  
自然に筆の開閉を学ぶことができます。

「筆を押し出す」「はじき出す」ような筆勢、  
流れやリズムを掴むことも大切です。「書の  
甲子園」などで、大胆にいきいきと力強く、  
鍛錬された高校生作品に圧倒されたことがあります。のびやかに表現したいものです。

「田習い」「手習い」どちらも大切です。

玉黄陽七春淑 惠華鳳翠真 泰采一敦俊一 春睦右蘭雅  
翠翠子生華子 弦洋晶玉優 香紗琴子吾隅 景月美花悠雲

# かな研究部 (元永本古今集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



桜れち  
いえ  
佳子子

真和春  
紀美華

芳佳知  
津枝恵子

和恵麻  
子石美

書椿橋蘭森水清秀

渡森樹高仙上春潮琇た清なこ清上東書澄蕙桜正清恵正う  
辺地原崎台泉汀音韻か月かだ月泉伯泉春書草華月石華生

◎特選  
飯高幹生

小大伊市池飯飯島トミ子昌玉チ幸洋子よう子泉子子子

大片葛二熱中中豪加極小梅吉高塚山七宇閻木石境田岡代川野村田高  
沢桐通海村山藤納泉林津野山本本三川佳れち木知和春佳津和恵麻幹生

◎特選  
飯高幹生

玉松惠椿竹桜一八華高澄華上正一青泉書天A玉墨清竹白菊の観春光芳こ正上  
泉翠美草弦街祥暉春祥泉華弦蓮会泉璋I松縁月か水汀彩蘭也華泉

渡安八守村三松深樋早林早沼永中寺中田寺武竹高瀬春島猿佐佐櫻齊小金柏  
邊鳩友上上澤浦掘口部坂田井里原中田澤井尾原渡々々田藤崎松木木

◎特選  
飯高幹生

青木作50書  
葵郷真橋志美信砂紀津智佳智玉清玉  
代舟子舟子舟月子江洗葉朗子朋心子泉子子衣楓子秋子子右芳子貞彩子

美聖奎時伯星恵宗恒小京慶悦薰雅和龍江惠子真和優子

菊月澄松春村入新阿青井部天坊

幸黎蘭高声書黎A縹長琇上白譽小わ春玄高有澄麗書土書華素高梓秀華  
屬明崎香泉明I縹月銀泉珠映か汀穹真秋春泉澤泉氣游仙雪崎江花歎仙

◎特選  
飯高幹生

冬冬洗玉草枝

梅百香登成翔綾幸は恵典余正賀保愛紀陽一代幸雅豁祥詠謙芳知雪智直恵茱幸和洋翠雅順麗纏紅英青清玲藤

◎特選  
飯高幹生

富澄竹菊高明蘭八声大玉富春聖大薰菊高大蒼千竹一う秀祥こ千東上土大書明玄薰

正秀梅棟高誠わ澄た帝わ花八坂八こ貴春原月崎漢鼎生香拙川街貴汀堂雲書月崎真雲陽園原弦る畊草だ葉向泉氣雲泉漢穹書

◎特選  
飯高幹生

菅新代庄清島島三佐佐佐佐佐佐佐驚坂斎小木黒熊久工木木北北菊菖川川片小尾岡大大大大標鶴印岩岩今伊伊石石五  
原行田子水田田條藤々々々々久山木藤峰暮柳井保根藤村下村爪地野野崎山岡澤形村藤瀬野西田田澤東瀬崎木藤渡田川十  
内惠木木木間美木木千登由はるか鶴一美和琴正祥薰等幸悦翠悦代佳子華子希子子子子子奈惠子子子梢美功子紀葉子美里香子子

葉真仙紅湖雲露風大春翠"明か"泉氣露堅書田  
"千高華蓮薺大白紅生澄楨"黎た上土白水洞誉  
外井漢仙紫ま仙川か泉だ汀大川雲露風大春翠"明か"泉氣露堅書田

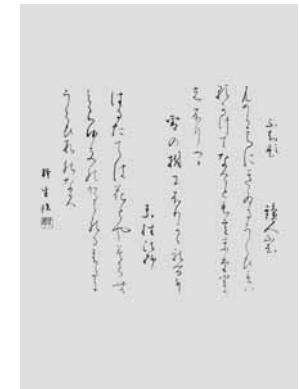
◎特選  
飯高幹生

129吉山山柳森本持宮富宮三三松松前本坂古船藤深平林浜瀆萩野永中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中  
名田本山口瀬田柳木本野下田浦鳴重尾川田切谷津本澤山野野田原村口井村野江江田沢玉山井口原木根田木原田本  
氏ゆ千滿有由美登久惠み香す

律琇峻小良佳津樂蒼道節翠希瑛美彩幸美代喜佳つ莉真永陽洋奈美悦寛美よ淳洋白幸哲花香代み貞昭代香陸美睦幸  
略か子楳京子華惠宣枝子枝翠舟子子景子仙雪桂雲子子惠月子吉號算一子々子子子子子子子子子子子子子子子子

かな研究部 総評  
原本に書かれている文字の字形をいかにかなりのリズムに合わせ表現するかが難しいが、素晴らしい線で表現できています。確かに力を感じました。

●かな研究部 総評  
簡単に書かれた漢字をいかにかなりのリズムに合わせ表現しましょう。古筆鑑賞ページの「よみ」を確認して下さい。「花とやみらむ」の「ら(良)」の変体がな気をつけましょう。



飯 高 幹 生

かな研究部 特選 飯 高 幹 生

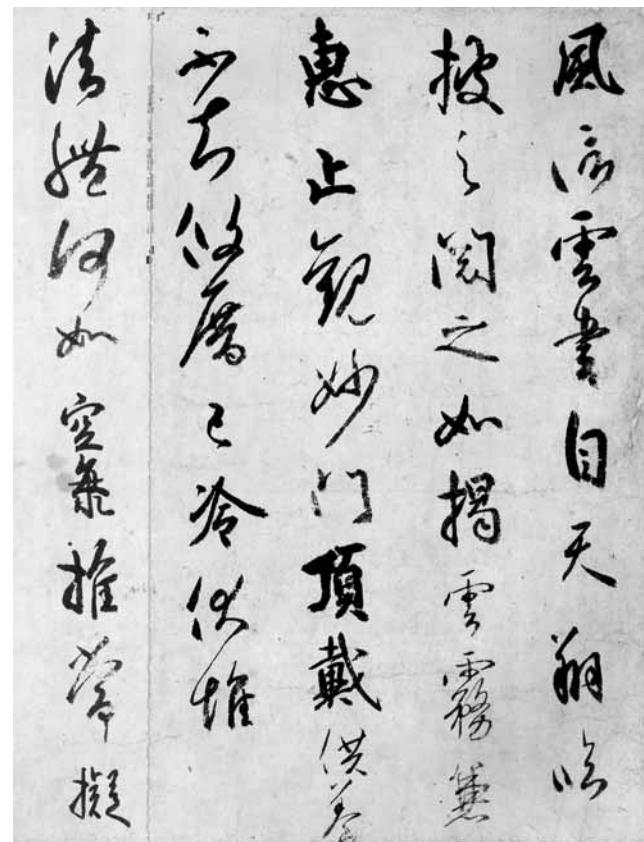
# 予告

2023・4月号(744)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(5月15日締切)

## 古典鑑賞

455 空海 風信帖 ①

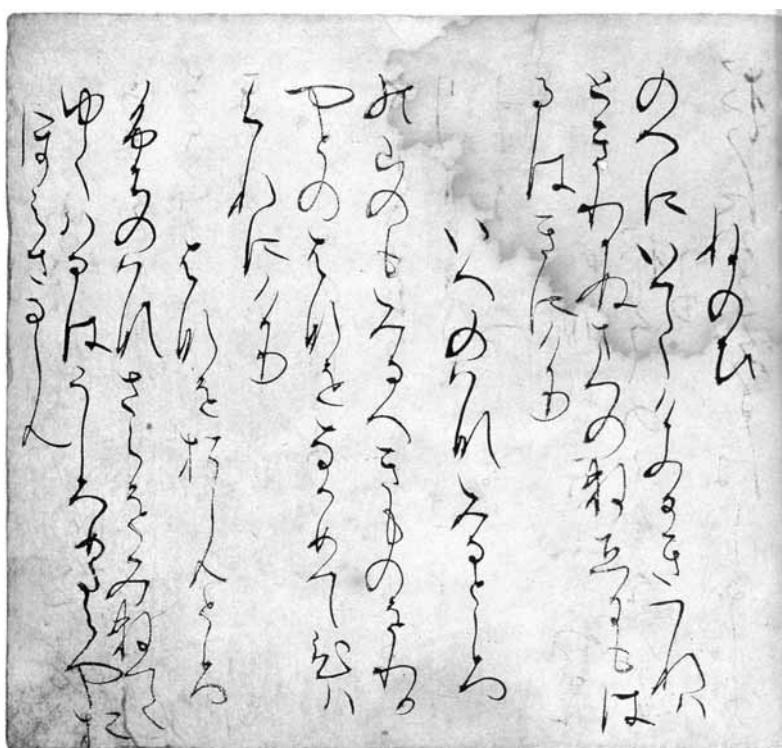


(東寺蔵)

(掲載図版・38%に縮小)

## 古筆鑑賞

229 中務集(伝西行)①



(出光美術館蔵)

(掲載図版・75%に縮小)

風信雲書、自天翔臨。披之閱之、如揭雲霧。兼惠止觀妙門、頂戴供養、不知攸厝。已冷。伏惟法体何如。空海推常擬。空海推常擬。兼惠止觀妙門、頂戴供養、不知攸厝。

よみねのひのべにいでしきふひきつればときわかぬまつのすゑにも  
はるはきにけりいへのはなみるところの山のもみるべきものをわが可  
やどのはなをながめてひはくれにけりはなをおしむところふちのはな  
さくをみてゝゆくはるはうしろめたくやおほえざるらん

# 書道芸術 春季特別昇段級試験

## 受験される方

1. 出願に必要な書類一式は4月1日以降に順次発送となります。

### 2. 受験する部門の作品制作について

1) 各部門の臨書課題は、742号(2月号)43~50ページに指定されている部分、字数を臨書する。

指定箇所以外の臨書は課題違反となります。

2) 落款は、臨書作品であれば「〇〇臨」、創作であれば「〇〇書」と書いてください。  
ただし、かな部とかな条幅部の創作・臨書は印のみでも可です。

### 3. 出品について

1) 出品作品にはすべて赤で作品番号を記入してください。

2) 出品時には、必ず作品と内訳表・名簿の3点を一緒に送付してください。

3) 受験料は、必ず期日までに振込または現金書留にて書道芸術院へ送ってください。

4) バーコード出品票は一種受験の場合は作品の右下に、「一種・三種受験」の場合は、「一番上の作品」にのみ添付してください。昇段級試験用出品券を必ず添付してください。

5) 作品・書類発送時には、封筒に余裕を持って入れてください。開封時、作品や書類が破損する可能性があります。

### 〈例：三種の場合〉

※ 作品には「一番上一枚のみ  
バーコード券を貼る。」

※ 受験する種別に赤で〇をつける。

※ 注意

▲ 昇段級試験用出品券のコピー  
使用は不可。

また、私製出品券も使用不可。  
貼付の際はヤマトのりを使用。



バーコード券は一番上ののみ貼る  
バーコード券は貼らない  
昇試出品券を貼る

出品作品全てに赤で  
作品番号を記入する。

# 特別昇段級試験

## 第二種(計2枚)

楷臨書 蘇慈墓誌銘(蘇慈墓誌銘)

楷臨書 皇帝誕碑(皇帝誕碑より)

楷臨書 金殿三春満落花(玉壇一夜留明月計3枚)

一、しめきり日 4月15日(土)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種

漢字条幅 一種、二種、三種

かな条幅 一種、二種

ペン字 一種、二種

漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

行創作 和神養素(神を和げ、素を養う)

行創作 玉壇一夜留明月(玉壇一夜留明月を留め)

行創作 野草無名都著花(金殿三春満落花)

かな部 半紙=たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け也可。

・かな部臨書・創作はともに落款は印のみ可。

かな・漢字の変更自由。

第一種(1枚)

臨書 高野切第三種(半紙一枚に2首書く)

第二種(臨・創計2枚)

臨書 粘葉本和漢朗詠集(半紙一枚に2首書く)

創作 ここるあらばたづねて来ませ鶯のじづひちらす梅の花見に(良寛)

第三種(臨・創計3枚)

臨書 関戸本古今和歌集(半紙一枚に2首書く)

第三種(4~10級の方は受験できない)

現段級が準師範~秀級(優級以下の方は受験できない)

現段級が特級~10級、新規

現段級が初段~3級

現段級が初段~3級(字体どちらも可)

## 第二種(楷・行計2枚)

楷臨書 皇帝誕碑(皇帝誕碑より)

楷臨書 金殿三春満落花(玉壇一夜留明月計3枚)

楷創作 野草無名都著花(金殿三春満落花)

かな部 半紙=たて長に使用

これは宮中の眺めである。

金殿三春満落花(玉壇一夜留明月を留め)

金殿三春満落花(玉壇一夜留明月)

## 四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)

・かな条幅部は印のみ可。

・臨書は○○臨と書く。(かな部・かな条幅部は印のみ可)

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇昇段級試験用振替口座で納入。

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、4月号(74号)の段級を記入

(昇試出品券を貼付欄に貼る)

一種は作品の右下に貼る。一種は作

三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上を

ホチキスまたはのりでとめる。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

5 受験申込み締切は3月20日(月)

6 申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル三階

書道芸術編集部特別昇段級試験係

(受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)

7 応募書類は4月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必

要事項記入の上、作品に添え応募する。

8 ○書

漢字部 半紙=たて長に使用

第一種(1枚)

楷臨書 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑より4文字を臨書)

楷臨書 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑より4文字を臨書)

楷臨書 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑より4文字を臨書)

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書または行書

楷書または行書

楷書または行書

楷書または行書

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

楷書 佳氣滿高堂(佳氣高堂に満つ)

## ●篆刻

### 【四月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む誰でも出品可。

#### ①摹刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出典の際、原印のコピー添付)

#### ②創作語句自由

〈原印コピー〉



「二字銅土」

吳譲之

### 3月号 摹刻課題

- 印面の大きさは3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印鑑は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

(摹刻)	
秀作(50音順)	大雲特選
芳琴大雲中日遊雲	鷺山美梢
林成中川片岡小澤野寺幸喜華仙	小映佳作(50音順)
淳能研治豪喜華仙一喜	蒼原金谷皓洋
生大丸山やま吉原橋本加藤清麗妙子	庄司櫻空
(選外なし)	秀汀空

(創作)	
秀作(50音順)	粹仙特選
慈庵富見空秀	藤井龍仙
茂野都坂木丸本	龍仙
絢紫花覚水蘭	白生唯一
游香雲荒宮内川赤星	琉一大
(選外なし)	平塚中昌

### ◎篆刻部総評

細部にわたって運刀の良さが目を引いた。何よりも丁寧である。

今月は、初出品の方が幾人か居られました。なかなかの作品で全体のレベルを上げて頂いた感があります。さらに多くのご出品を期待。

構成に独特の雰囲気が漂う作者の印。今回も、それが顯著である。

#### 送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

### <特選>



「鄭箕」

#### 摹刻

### 741号篆刻優秀作品

#### 選評 後藤大峰

#### 創作



「松星」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区 東神田一一六一七  
FAX(03)3862-1954  
101-0031 電話(03)3862-1954  
東神田プラザビル三階  
公益財団法人書道芸術院  
〒101-0031

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。  
十六時に時間の変更しております。

\*お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日(金曜日九時~十七時の間)  
にお願いします。(土・日・祝日は休み)

定価 一部 七五〇円  
二部 下 谷 洋 子  
三部 編集兼 印 刷 データ処理  
株式会社 リンクス  
小沢写真印刷株式会社  
発行所 公益財団法人 書道芸術院  
101-0031 東京都千代田区東神田一一六七  
東神田プラザビル三階  
電話(03)3862-1954  
FAX(03)3862-1957  
振替 100-1504-135055  
[ホームページアドレス](http://www.lincs.jp/shogei/)